

最終回

(1997年中央大学経済学部卒。97-2001年中央大学職員)

元中央大学職員の

世界放浪

6

石井誠啓

Ishii Masayoshi



派な家に住んでいるんだとか。お金を乞うということを職業にしてるわけだ。また、ある国では親が生まれた子の手や足を同情をかうためにわざと切り落とし、物乞いとして育てるって聞いたことがある。

エチオピアのこと

エチオピアを旅したとき、ラリベラ出身のエチオピア人青年たちと出会った。気さくだし、いい奴らだと仲良くなった。あるとき、インターネットの打ちこみを代わりにやってくれないかと頼まれ、なんてことないとOKした。内容をちらっと見ると世界中にスポンサーがいるようだ。ラリベラに来る観光客は多いので知り合っただろう。彼らの身の上と同情し、送金するようになったのならそれでいい。が、打ちこむことを頼まれた内容は、自分は病気で治療費が必要だから送金してほしいというものだった。「本当に病気の？」って聞いたら、答えは「ノー」。貧しいのはわかるよ。でもだからといって嘘ついてまで……。悲しくなった。

貧しくてもまっすぐ生きている人

貧しさと豊かさの間

今回で連載も終了となります。これまで読んでくれた方々ありがとうございます。ございました。

最終回は僕が感じた貧しさや豊かさについて。

物乞いへの対応

あんなに旅をしたのに、いまだにわからないことがある。物乞いへの対応がはつきりしない。基本的には「あげない」というのが僕の姿勢だが、旅の後半ではあげることの方が多くなった。物乞いをするのが簡単に。お金や物を手に入れる方法だと考えている人にはあげたくない。そのと

き、僕らがあげる行為はその人のためにならない。自立心を奪い取ってしまう。何もなくても生きていけるんだと思わせてはならない。

逆に、その日食べるものもなく、病気なのに薬すら買えない人にあげない場合、その人を見捨てたことになつてしまう。旅行者が一瞬でそこまで見抜くことは無理。最終的には個々の判断でいいのかな。100%の正答はないのかな。

発展途上国と呼ばれる国々で、多くの物乞いを見かけた。ストリートチルドレンが寄ってくる。外国人は金持ちでくつついていればそれだけでお金がもらえるって思ってる。だから、あげない。でも日本円でたかだか何十円で彼らは満足する。それ

くらい別にあげてもいいんじゃないの？ って声も同時に起こる。いつもの葛藤。いいやダメダメ、他に生計を立てる方法を見つけないと結論づける。僕は自分を正当化してのさだろうか。

ある日本人のセリフ。「物乞いに對して、それを拒否したとき嫌な気持ちになるのは自分がケチだと思づくから。自分は良い人間だと思つてたのに実は冷たいと気づくからだよ」

貧しいということを武器にしてる場合だつてある。ブルガリアに3年以上住んでる人の話では、そこに住む「放浪の民」といわれる人たちは一見貧乏そうだけど、コツコツと物乞いして稼いだ金で実はすぐ立



ヒマラヤ山脈は「世界の屋根」、神々しさに包まれた（ネパール）

たちもいる。でも僕は彼らの立場に
いないから、そういえるのかもしれ
ない。実際に自分が貧しかったら、
人をだましてでもお金を得て、教育
を受け人生を変えたいって思うかも
しれない。貧しい環境からの脱出が

すべてかもしれない。

ネパールのストリートチルドレン

カトマンズ（ネパール）にいたとき、
宿の前でストリートチルドレンを見
かけた。その彼らに食事をおごった

りする旅行者がいる。少
年が旅行者からもらった
タバコを得意げに吸って
みせる。ストリートチル
ドレンと聞くだけで同情
してしまいがちだが、中
には住む家、家族もあ
り、学校にも行けるのに
そうしない子がいる。旅
行者といれば何かもらえ
るから。もらったお金で
ドラッグを買ったり、も
らったものをお金に代え
たりする。

ある日、裸足に包帯を
し、ぼろぼろの服を着た
少年が宿に入ってきた。
泊まっていた日本人にお金
や食べ物くれと要求す
る。靴までも欲しがり、
自分の頭をその日本人の
靴に執拗に押しつける。

持つものと持たざるものが対照的な
図。こういうとき迷う。その子が自
分の環境からただ逃げ出してきた子
なのか？それとも本当にどうしよう
もなく貧しい子なのか？もしそうなら
何も手を差し伸べないことはその
瞬間に見捨てたことになる。心が痛い。

貧しさって何だ？

ネパール人たちは「私たちは貧し
い貧しい」と言う。確かに山がちな
国のため、耕作面積は限られてるし、

は、「ネパールはそこまで貧しいと
思わない。彼らは貧しさを訴えるこ
とで援助を受けることを当たり前だ
と思っている。国内の予算編成には
常に日本のODAが見込まれている。
援助を受け続けている限り、自分た
ちで何とかしようとは思わないだろ
う」と言っていた。

ある村に行ったとき、「ネパール
は本当に貧しいの？」って聞いてみた。
出会ったネパール人は「私の村に関
しては自給自足はできている。住む



笑顔の少女（ネパール）

ところもある。ただ、
子どもたちを私立
学校に行かせたい
から現金収入が必
要なんだ」と言う。
公立の学校は安い。
でも英語を勉強で
きる私立学校に行
かせれば、将来い
い仕事に就ける。

農業の仕事は

国内総生産なんかでみても、世界最
貧国の1つであることは間違いない。
でも、自分たちは貧しいって思い込
んでるところもありそうだ。

ネパールに長年住んでいる日本人

女性が多く、男性は現金収入の仕事
を求め、町に出ていく。ネパールは
観光資源の優れている国で、山や自
然は世界各国から旅行者をひきつけ
る。ネパール人男性はそんな旅行者

をターゲットにしたホテルや旅行代理店の仕事を選ぶ。そして、貧しいと叫ぶ。彼らはそこで知るからだ。自分らの村の生活と海外からやってくる旅行者の生活の違いに気づくからだ。でも本来、貧しいというのは住むところも食べることもできないことを指すはず。先進国と比較すれば貧しいに決まっている。便利な生活、富む者への憧れが彼らが言う「貧しい」に込められている。

本来伝統的な生活にのっとつていれば、田舎の生活でも事足りていたかもしれない。旅行者が彼らに物質的な豊かさを教えてしまったんだと僕は思う。彼らに貧しいと気づかせてしまったんだと思う。

ラオスのある村でEU支援のプロジェクトに携わるラオス人はこう言っていた。「村人は自分たちが貧しいかどうかなんて知りやしないわよ。外の世界を知らないんだからね。知らないものは比較しようがないでしょ」

僕は別に先進国ばかりが工業化し物質的に豊かになっていき、発展途上国に発展するなといったいのではない。ただラオスの村人たちも外部

の人と接していくうちにいつの日か、ネパール人が言うような「貧しさ」に気づくんだろうな。じゃあどうしろっていわれてもわからない。これからも僕なりに考えつづけていくしかない。

ペルーのジャングルの暮らし

ペルーのジャングルで18日間過ごした。ジャングルっていつても、ちゃんとした村があり、東南アジアの田舎みたいな感じ。でも、のどかさとももなさでは今まで訪れたところの中でも最強レベルかもしれない。

気温は毎日40度近くで暑いなんてもんじゃない。僕は蚊とダニに100カ所以上刺され、全身傷だらけになった。たまたま出会ったシピボ族アレックスの家にお世話になったんだけど、トイレは地面に穴があいてるだけ。体は近くの汚い沼で洗った。部屋の中はアリだらけ。夜になるとネズミが動き回る。

1日2回の食事は質素このうえない。主食はバナナ。川で釣った魚、季節ごとにそのへんに実る果物を食べる。米やパスタを買う金はない。でも大したもん食べてないのに不

思議とこの村の人たちは長生きする。80歳以上のおじいちゃん、おばあちゃんをよく見かけた。みんな元気のいいこと。ぜいたくな食生活なんてなくとも、自然にあるものを摂取し、自然と共に生きれば人間は長生きできるということを彼らが証明している。

家族と狩りに出かけた。一緒にカヌーで川を進み、湿地帯になったところで猟銃が火をふいた。いくらでも撃ち殺すことはできるけど、生態系を壊さないように一度に狩る数は2、3匹。それも4、5カ月に1回。乱獲はしない。自然と共存する知恵を見た気がした。

家に戻るとおばあちゃんが強引に手で鳥の毛をむしりはじめた。骨と皮だけになると食べるところなんてほとんどない。それでも彼らにとつてそれはごちそう。

自然にあるものを食する生活。新しいものを買うための現金収入はない。でも、家族がそれぞれ仲良く暮らしているこの村からは貧しくてどうしようもないという雰囲気は感じなかった。質素ながらもその土地にあった生活を営んでいた。

パキスタンの民族に学ぶ

パキスタンの北部にあるカラシユ谷。カラシユ族と呼ばれる人々が山深い谷にひっそりと暮らしている。彼らはパキスタンに住んではないが、ムスリム（イスラム教徒）ではなく、彼ら独自の文化と言語を持つ。一説にはその昔アレキサンダー大王が遠征してきたときの末裔といわれるが、白人のような顔立ちと青い瞳を見ているとそんな気もしてくる。

男性は他のパキスタン人同様、シャルワールカミースを着用しているが、女性は見ると鮮やかな民族衣装を着ている。それが普段着。黒を基調とした色とりどりの刺繍、ビーズや貝殻の装飾品、髪を1つに編みこんでいる。その姿を見たら誰もが思うに違いない、「美しい」と。木々の合間をぬってさしこむ陽の光りにたえずむカラシユの人々、まるで自然と一体化するように見え、ハッとその場に立ち尽くしてしまふ瞬間があった。

谷に点在する村々は静かで、川のせせらぎが聞こえてくるだけ。ここはパキスタンの都市の喧騒とは無縁

だ。一緒にいた日本人が何度も言う。「ジャンティ（平和）だ」と。何の前触れもなしに子供たちが歌いだす、踊りだす。ただ無邪気に自分たちが楽しむために。色鮮やかな民族衣装をまとった少女たちがくるくるまわり、少年たちがタライをリズムよく棒で叩く。「オーダリオー……」。歌は何度も繰り返される。その様子の嬉しそう、楽しそうなこと。僕はその場にいれたことに感謝した。世界で一番美しい踊りだと思った。技術的なことをいっているのではない。彼らはなぜ歌い、踊るのかを知っている。「生きていく」その喜びを自然に表現する方法を知っている。世界中のいろんな踊りを見てきたが、その何よりも輝く踊りだった。

この瞬間を味わっただけでも旅に出てよかったと思っただけくらいだ。子供たちが踊ってよってせかす。「よっ



無邪気なカラシュ族の子どもたち（パキスタン）

しゃあ!!」と日本人男3人ができとうに踊る。醜い、世界一醜い踊り……。

に折り紙で鶴や手裏剣を折ってあげたら大人気となり、次から次へと子供がやってきておねだりする。いったい何個折ったことか。まるで工場のように大量生産するはめになった。それでも喜ぶ子供たちの笑顔が嬉しくて、

子供たちは人なつっこい。習った片言のカラシュ語を話すとウケがいい。その宿に集まってくる子供たち

この村には夜しか電気はない。シャワーはなく、当然お湯なんてない。すべての水は湧き水による。

ついつい折ってしまうわけ。村を散歩してたとき、ある家族と出会った。その日お父さんが遠くの町から久々に帰ってきた。家族は15人。お父さんがお土産の蛇のおもちやをとりだした。2歳くらいの子がそれを追いかけて、お姉ちゃんたちを追い回したら怖がってキャーキャー言って逃げていく。お母さんたちまで一緒に遊んでいる。たった1つの蛇のおもちやしばらくの間、その家族に笑顔と歓声をもたらした。ほほえましくて、ほのぼのとした光景。眺めていた僕の心はなんだか癒された。

テレビやサッカーボールもないけど、子供たちの笑顔がそこら中にあふれている。一緒に踊り、日本の歌を教え、折り紙を折ってあげた日々。教えてあげた「アルプス一万尺」はおおはやりになった。本当に幸せな時間を過ごした。またいつか来たいと思える場所。この村がずっと変わらないことを祈ってる。目をつむり、耳をすますと子供たちの歌が今も聞こえてきそうだ。「オーダリオー……」

マザーテレサが生前、「日本は心の貧しい国」だと表現していた。物質的に貧しい人々は資本主義がもたらす「豊かさ」にあこがれるけど、彼らのほうにこそ心の豊かさがあるように思うときがある。それはどんなモノもかなわない価値あるものかもしれない。

日本は豊かな国なの？

お金やモノのせいで人は次から次へと欲に駆られるようになった。新しい車、洋服が欲しい、広くてきれいな家に住みたい、もっとおいしいものが食べたい。ただ欲の追求が果てしなく続いていく。本当に貧しい国の生活と比較してみたい。それは

生きていくのに最低限必要なの？

物質的には十分に豊かな日本。戦後、「欧米に追いつき追い越せ」の精神で世界有数の経済大国になった。海外を旅すると現地の人から「日本はいいなあ、ハイテク技術があつて、

金持ちで……」つてうらやましがられた。果たしてそうだろうか。日本はいい国なんだろうか？

いい国の日本がなぜ先進国の中で自殺率1位(年間自殺者数8年連続3万人超え。04年は韓国が日本を凌

いだ)なのか。

ウィグル(中国)で

なぜ働く時間が減らないのだろうか。日本に比べると夜遅くまで働くことなんか当たり前だが、海外でそんな話をするとは異常がられる。目の前の

エクアドルで

仕事に忙殺されて考える時間もない日本ではそれが異常だつてことにも気づかない。ヨーロッパは休暇制度が充実している。例えばフランスなんかは週35時間と法律で決められた時間しか働くことはなく、年に5週間以上の休暇があ



る。日本の2004年度の過労死は150人、過労自殺は45人と過去最高の数字になった。働きすぎて死ぬ人が出てまでも経済的に世界1位とか2位とかの座にしがみつく必要があるのだろうか？

働くことは生きていくために必要なこと。賃金を得て衣食住をまかなうために。自己実現をするためにも働くという行為が1日の時間の多くを占めるようになった結果、家族が一緒にいる時間は確実に減った。教育は学校中心になった。家庭でし

ペルーで

つけられていない子供は学級崩壊を起こした。高学歴、高収入がよい人生だと信じる親達は子供を塾に行かせる。いい大学に行くこと、いい会社に入ることが人生の目標であるかのように教育する。結果、ストレスはいじめとしてあらわれ、自殺が増えた。また、子供が先生を刺したり、親を殺したりする事件が起きるようになった。

出生率1・26%(06年11月修正)で高齢者だらけの日本は誰もが将来に関して不安を抱えている。若い人は減少しているのに仕事がない。かつてない高い失業率。一方で増えるフリーターやニート。こういう社会現象の原因は何に求めるべきだろう。日本の将来はどうなるんだろう？

僕は日本人に生まれた。日本が好き。でもモノがなくても家族と一緒に暮らし、精神的にゆとりのある生活を送る発展途上国と日本を比べて、僕にはどっちが幸せなのかわからなくなることもある。人間らしい生活をしてるのは日本？ それとも？

おわり

